

獅子祭（イタシキバラ）

琴森戀

旧歴七月十六日 石垣島では獅子が舞う
無病息災と 皆の邪気を祓う為

それを人々は 古より イタシキバラと呼ぶ
私は ぐずる子供をあやし 祭りを堪能する
銅鑼の音や歓声が響き 家主は酒を振る舞う
雄雌の親獅子が御嶽の庭を縦横無尽に駆ける
獅子使いは 好物の朱い綱を両手に持ち
巧みに誘き出すと 獅子は綱を喰らう

三線の地謡が早弾きになり 踊る子供らは
「れーるれ れーるれ」と 獅子を指差す
綱を放した獅子が 大きな口で子供を噛む
子供は泣き叫び 大人は笑っている

徐々に子供らは 噛まれていったのだが
私は恥ずかしくて 物陰に隠れて観ていた
と ひとりの坊やが私達を指差しし

「れーるれ れーるれ」と 声をあげた
村人は「だあれもいないよ」と坊やを諭した
獅子は 坊やの指を頼りに 虚空を探す
坊やは心の声で そつと教えてくれた
（おばちゃん 今は戦世ではないさあ）

その時 ようやく気づいたので
私達は もう この世にいないのだ と

両頬を涙が零れ ぽとり と 落ちた
糸芭蕉の獅子毛が 涙で揺らめいた

そして ぽかんと開いた獅子の口に飲まれた

私達は二つの燐光となり森を眼下に飛翔した
やがて銀河の森に溶けていった……